

今年第19回を迎える「しずおか市町対抗駅伝大会」が12月1日(土)10:00スタートで開催されます。

今回は第1回目から吉田町の選手団を引っ張ってこられた名誉監督の坂本國雄さん(83歳)をご紹介します。坂本さんは乳幼児から小学校へ入学前まではいつ亡くなるかもわからないような病弱な子供だったようです。本人はあまり覚えていないようです。

そのように体の弱かった坂本さんですが、陸上競技を本格的に始めたのは高校2年生の時からです。陸上部へ入り主に800m、1500mの中距離の選手として練習を積まれました。静岡県の新入戦の大会で優勝したこともあり、また、静岡県と山梨県合同の大会でも3位に入るなど実績を積まれました。さらに、高校2年生・3年生の時には駅伝にも少し関わっていました。一方で陸上とは全く関係の無い生物クラブにも加入され掛け持ちで活動していました。

高校卒業後は、しばらくの間、地元の青年団で中距離の選手代表として色々な大会に参加をしていました。そんな中、父親が脱サラをして、カツオやマグロを釣る際に用いる疑似つり針を作る仕事(坂本漁具製作所)を始めたため、その仕事を手伝うことになりました。しばらくは陸上競技から離れることになりました。しかし走ることが大好きだった坂本さんは自宅のそばにある大井川河川敷運動公園で毎日欠かさず走っていました。

50歳過ぎになって、再びマスターズ陸上選手権に誘われたり、スポレクの全国大会に参加して陸上競技へ再スタートを切ることになりました。そして吉田町の選手団と一緒に練習にも参加するようになり、陸上部の役員(部長)を任せられるようになり、駅伝の選手育成に力を入れるようになりました。

写真左 代表選手として走る坂本さん

写真右 第16回全日本マスターズ陸上競技選手権大会に参加する坂本さん(当時60歳)



[駅伝クラブの名誉監督](#)



[駅伝クラブの名誉監督](#)

その後、監督を任せられるようになってからは「競技に参加する以上勝たないと意味が無い」との信念で選手団の練習や育成に力を注ぎ、常に上位に入賞する選手団作りをされ、吉田町にとってはその功績は大でした。

写真 昨年の第18回しずおか市町対抗駅伝大会の選手団



[駅伝クラブの名誉監督](#)

高齢になり後進に道を任せることになりましたが、その功績や人柄で引き続き名誉監督として現在も選手団から慕われています。毎年6月～11月の毎週木曜日(18:30～20:00)、12月～翌年3月までは月2回(18:30～20:00)が練習日となっており、そこにも顔を出されています。

写真左 選手団の練習を見守る坂本さん(右側)

写真右 若々しい名誉監督



[駅伝クラブの名誉監督](#)

[駅伝の名誉監督](#)

最後に、元気の秘密を聞いてみましたが、「何事も好奇心をもって臨む」「過去を振り返っても仕方ない。前に向かって頑張る」をモットーにして日々の生活を楽しんでいるということです。プライベートではアウトドアが大好きで今でも毎年山登りやハイキングに出かけ、冬場のスキーシーズンには5回～6回自家用車を運転して出かけています。とても83歳とは見えない坂本さん、いつまでも元気はつらつ!! 駅伝選手団の名誉監督として頑張ってください。エールを送ります。

写真 スキーを楽しむ坂本さん



[駅伝クラブの名誉監督](#)

小笠・榛原地区生きがい特派員 高井 豊